

「みんながわかる授業づくりアイデアシート」

- 1 【一人一人の持ち物が整理しやすい工夫】
 - ①収納場所をわかりやすくするための工夫 ②置き場所を決める
 - ③整理整頓の時間を設ける ④見本の提示 ⑤置き場所の確保
 - ⑥その他
- 2 【児童生徒にわかるように示す工夫】
 - ①提示場所の工夫 ②提示方法の工夫 ③提示のタイミング
- 3 【集中できる教室環境の工夫】
 - ①座席等の工夫 ②視覚刺激への配慮 ③聴覚刺激への配慮 ④整理整頓
 - ⑤その他
- 4 【授業の見通しの持たせ方の工夫】
 - ①目標の提示 ②授業の流れを統一 ③授業の流れの提示 ④授業の内容の提示
 - ⑤その他
- 5 【わかりやすい伝え方の工夫】
 - ①見てわかる工夫 ②板書の工夫 ③指示の出し方 ④話し方の工夫
 - ⑤その他
- 6 【考えをまとめさせるための工夫】
 - ①ワークシートの活用 ②板書の工夫 ③話し合い活動
 - ④キーワードやポイントの提示 ⑤考える時間の確保 ⑥例の提示
 - ⑦その他
- 7 【理解を促す学習形態の工夫】
 - ①流れを統一 ②話し合い活動 ③習熟度別 ④座席の配置
 - ⑤その他
- 8 【実態に応じた教材・教具の工夫】
 - ①ワークシートの工夫 ②絵やイラストの活用 ③見やすさへの配慮
 - ④具体物、半具体物の提示 ⑤ICT の活用 ⑥その他
- 9 【児童生徒が自分の考えを伝えやすい工夫】
 - ①型・ルールの提示 ②雰囲気醸成 ③考える時間の確保
 - ④自信が持てる工夫 ⑤発表の機会の確保 ⑥その他

1 【一人一人の持ち物が整理しやすい工夫】

◎学級全体に対しての配慮

①収納場所をわかりやすくする工夫

- ・ファイル入れ等を使って表示をつけ、何がどこにあるかをわかるようにしている。
- ・ロッカーや棚、フック等には名前、出席番号を明示して間違えないようにしている。
- ・学習用具等に名前や班の番号などを明示している。
- ・ロッカーにテープを貼り、色を変えている。
- ・どこに何を置くのか表示し、一目でしまう場所がわかるようにしている。
- ・実物の写真を撮って収納場所に貼り、「見える化」している。

②置き場所を決める

- ・学校に置いておく教科書は班ごとに管理している。
- ・全体で集めるものと個人で保管するものを分けている。
- ・机の脇には何も掛けないなどを統一している。
- ・引き出しに必ず入れるように指示をしている。
- ・何をどこに置くかを決めている。

③整理整頓の時間を設ける

- ・定期的（例：毎日・週末・1～2か月に一度）に道具箱やロッカー、机の中等を整理する時間を設けている。

④見本の提示

- ・ロッカーや用具等の整理整頓の仕方を図や写真で示している（わかるところに掲示する）。

⑤置き場所の確保

- ・2～3人に対して一つのロッカーを用意して、個人ロッカーに収まらないものを入れるようにしている。
- ・ロッカー1つを使って、4～5人程の粘土、計算カード等をしまうようにしている。
- ・教科書は教科別の棚を設置している。
- ・絵の具や習字セットを置く場を設けている。
- ・給食着入れを男女別グループごとに入れられる箱を用意して利用している。
- ・下校時に名札をかくておくための物を用意し、自分の番号のところにかけるようにし名札忘れを防いでいる。
- ・部活動用具置き場を用意し、自己管理させている。
- ・ロッカーに入らないものはトートバッグに入れ、教室の荷物入れのカゴの中に入れている。

⑥その他

- ・使わないものは持ち帰らせている。
- ・絵具セット、習字セットなど使い終わったら持ち帰らせている。
- ・必要以上に物を持ってこないように言葉かけをしている。

◎個別に対しての配慮	
②置き場所を決める	・引き出しの中は右にノート、左に教科書を置くように決めている。 ・整理が苦手な児童生徒には「家庭に持ち帰るプリント」「授業用プリント」をファイルで分けている。 ・教科ごとにジッパー付きのファイルや袋を用意させ、管理しやすいようにしている。 ・プリントなどの整理整頓が苦手な児童生徒には、ファイルを用意し、その都度ファイリングするようにしている。
③整理整頓の時間を設ける	・机、ランドセル、連絡袋等の整理を一緒に取り組んでいる。 ・朝読書やその前の時間に机間巡視し、声をかけながら一緒に入れ直している。 ・机の中、ロッカーが整理できない児童生徒は放課後一緒に整理している。
④見本の提示	・一緒にやってみせて、少しでもできるようになったら褒めている。
⑤置き場所の確保	・机、ロッカーに入りきらない物を預かっている。 ・特別に用いる学習用具はかごや予備の棚を使用して、自分で準備・片付けができるようにしている。 ・個人のかごを用意している。 ・「●●さんボックス」を用意している。
⑥その他	・隔週で様子を保護者に伝え、良かった点、課題点の共有を図り指導や支援に生かしている。 ・持ち物整理整頓リストを作成している。 ・個数、本数を指定している。 ・机の近くにもう一つ机を置き、2つの机で整理整頓ができるようにしている。 ・個別のごみ箱を用意している。

2【児童生徒にわかるように示す工夫】

◎学級全体に対しての配慮

① 提示場所の工夫

- ・ 教室側面に目標を掲げている。
- ・ 生活の約束は教室後方に掲示し、いつでも確認できるようにしている。
- ・ 後ろの黒板にその日の予定や月行事予定を掲示している。
- ・ 毎日、1日の予定をホワイトボードに示している。(授業、行事など)
- ・ 朝の支度の流れを黒板に示している。(「1～」 「2～」、というように)
- ・ 黒板の端にホワイトボード等でその日の予定を掲示している。
- ・ 前面のホワイトボードで予定を確認できるようにしている。
- ・ 全員が見えるように掲示している。
- ・ 全クラス同じ場所に掲示している。
- ・ 壁に各週予定表を拡大して掲示し、見通しを持たせている。
- ・ 学年掲示板に翌日や翌々日の予定や月行事予定を掲示している。

② 提示方法の工夫

- ・ 帰りの会で明日の予定を生活ノートに記入し、写真で予定を見ながら写せるようにしている。(全クラス共通)
- ・ 週の時間割は児童生徒一人一人が持つようにし、教室の前方にも掲示をしている。
- ・ 教科ごとに色分けをして見やすくしている。
- ・ 予定表には行事、時間割、学習内容、持ち物、宿題などを記している。
- ・ 学級通信や学年通信の下に来週の予定を入れ、各家庭にも配布をしている。
- ・ 連絡帳(やりとり帳)に明日の授業の内容や持ち物を書かせている。
- ・ 共通の提出物は一覧にして見えるようにしている。
- ・ 朝の会でホワイトボードに示しながら、今日一日の予定を話している。

③ 提示のタイミング

- ・ 行事に向けてのスケジュールを掲示している。
- ・ 今日の予定をホワイトボードで掲示し、変更点があるときは、説明をしながら掲示を変更している。
- ・ 予定表(週)を金曜日に全員で確認し掲示している。
- ・ 年度初めに授業内での約束事をプリントに沿って説明している。
- ・ 朝や帰りの会、学活や給食中予定等を伝え、確認している。
- ・ 一人一人が毎単元、目的を持って取り組めるよう、4月当初から指導している。
- ・ 大きな単元は、学習計画表を張り出し、今どこの何の学習をしているのかを「見える化」している。

◎個別に対しての配慮

①提示場所の工夫

- ・ランドセルを開けたら見えるところに学級通信を入れている。

②提示方法の工夫

- ・机の上にテープを貼って（「～をします」等を書いて）、できるようになったら剥がすようにしている。
- ・付箋等で（わかりにくい事項がある時は）示し筆箱に貼っている。
- ・1日の予定表を個別に渡している。（具体的なもの）
- ・ホワイトボードに書き込み、終わったら消している。
- ・ホワイトボードに時間割、内容、持ち物などを記入し、朝の会（その日の予定）と帰りの会（翌日の予定）で確認している。
- ・メモを渡して順序をわかるようにしている。
- ・やれることを本人と決め、頑張ることと動いていい範囲を紙に書き、本人と見ながら活動している。
- ・帰りの会の後、個別に呼び、指をさしたり、メモをとらせたりしながら確認している。
- ・登校に不安が見られる児童生徒には更に詳しくどんなことを行うのか保護者と連携をとっている。
- ・連絡帳（やりとり帳）に明日の授業の内容や持ち物・連絡事項を書かせている。
- ・特別に配慮しなければならない児童生徒には個別に声掛けをしている。

3【集中できる教室環境の工夫】

◎学級全体に対しての配慮

①座席等の工夫

- ・グループ学習では全員が黒板を注視できるよう座席の配列を考えている。
- ・学び合いの形を大切に、座席の配置を工夫している。（対話型の席）

②視覚刺激への配慮

- ・汚れたり、古い掲示物は処分している。
- ・時計は後ろに置いている。
- ・刺激の少ない配色の掲示物を掲示している。
- ・教室前面掲示は最低限（例：目標、時間割、日報のみ）のものにしている（学校で統一している）。
- ・掲示物は教室横に掲示している。
- ・前の黒板の上には掲示しない、時計もはずしている。
- ・黒板はシンプルにしておく。
- ・教室前面に物を貼らない。
- ・掲示をカーテンで隠して気が散らないようにしている。
- ・黒板に授業以外のことを書いておいたり、貼っておいたりしない。
- ・教室前面には、学校・学年・学級目標のみを掲示している
- ・学期目標や張り紙等は背面黒板に掲示するようにしている。
- ・教師ロッカーには紙を貼って見えないようにする。
- ・紺や青を台紙として用いるようにしている。
- ・光の加減で映像が見えない児童生徒がいないように工夫している。
- ・色の工夫（チョーク、掲示物）をしている。
- ・チョークの色を白と黄色のみを使うようにしている。
- ・教室前面に貼るラシャ紙はカラーセラピー的に良い色にしている。（あさぎ、クリーム色）
- ・廊下側の窓は人が通ると落ち着かないため、意図的に掲示物を貼っている。

③聴覚刺激への配慮

- ・周りのクラスの声（歌など）が気にならないように、ドアの開け閉めに気を遣う。
- ・机、椅子の足にテニスボール（学校で統一）を使用している。
- ・CD、DVDの視聴の際には適切な音量に調節をしている。

④整理整頓

- ・教室の美化に常に努めている。
- ・机やロッカー、掲示板は整えるよう意識している。
- ・児童生徒の気が散らないように教室内の整理整頓を心掛けている。
- ・教師自身の机上の整理整頓している。

⑤その他

- ・植物を置きリラックスできるようにしている。
- ・風通し、気温の変化に伴う空調の活用、光量の調整、教室内の利用の仕方、動線に留意している。

◎個別に対しての配慮

①座席等の工夫

- ・椅子のみで授業を行っている。
- ・机がないと落ち着かない児童生徒に椅子と机のセットを用意している。
- ・座席を班長会で話し合う。テーマ別に授業に集中できる座席にしている。
- ・黒板が見やすい席の位置について児童生徒の特性を理解した上で決めている。
- ・席の位置を工夫し、必要に応じて移動したり、担任の隣で活動したりすることも場合によっては取り入れている。
- ・座席を前にすることで集中できるようにしている。
- ・前から2番目に座らせている（前には手本になる児童を座らせる）。
- ・1時間教室に居られない児童生徒の座席を後ろにするなど配慮している。
- ・ADHDの場合等、特性に応じて席を決めている。（他の児童生徒が見えなくてよい場合は一番前、集中したいが誰かの動きを見せたい場合は二番目、落ち着いて人から見られたくない場合は一番後ろなど）

②視覚刺激への配慮

- ・パーテーションを使うなど視覚的な刺激を減らすようにしている。
- ・個別の指導の場では刺激のない部屋になるよう工夫している。

③聴覚刺激への配慮

- ・イヤーマフの使用を認めている。

④整理整頓

- ・机上の整理を行う場を設けている。
- ・机上並びに机の横の整理整頓を心掛けられるよう声かけ等を行っている。

4【授業の見通しの持たせ方の工夫】

◎学級全体に対しての配慮

①目標の提示

- ・授業の始めにめあてや本時のやることを黒板やプリントに示している。
- ・本時のめあて、問題、まとめを色別で提示している。
- ・めあてを必ず板書し、ノートに写し、読み上げる流れをどの時間も共通して行っている。
- ・何を身につけてほしいか伝えている。
- ・問題を提示し、めあてを児童生徒と考える。
- ・課題を明確にし、授業のめあてを児童生徒から引き出すようにしている。
- ・「単元のめあて」だけでなく「本時のめあて」も確認している。
- ・導入時に今日の目標や課題、目的を示している。
- ・評価の基準、ねらいを明確にしてポイントを教えている。
- ・授業開始時にねらいとその授業の流れを板書する。その後、説明して授業の大切な部分を伝えてから授業を始めている。

②授業の流れを統一

- ・めあてとまとめを正対させている。
- ・国語、算数では毎時間の流れを統一して行っている。
- ・「目標記入」→「活動」→「感想記入」の授業の流れは3年間を通して統一して行っている。
- ・毎時間、挨拶→Warm Up（歌、Speaking）→本時→まとめの流れで行っている。（英語）
- ・流れをパターン化している。（例：発言→板書、板書→ノート 等）

③授業の流れの提示

- ・黒板の左端に流れを掲示し、「今日はこの流れ」で学習するということを児童生徒に冒頭に伝えている。
- ・単元の初めには流れを伝えている。
- ・本時の流れを黒板等に明示し、どのような流れで授業が進んでいるか、わかるようにしている。
- ・単元や1時間の学習の流れを示している。
- ・授業の流れを掲示し、口頭でも簡単に話をしている。
- ・活動の流れを伝えてから授業に入るようにしている。
- ・授業の流れを掲示し、今、何をしているのかわかるようにしている。
- ・黒板に流れを書いてゴールをわかりやすくしている。
- ・単元の初めにどこまでやるのかゴールを示している。
- ・黒板左側に1時間の流れを書いている。
- ・ワークシートに手順の流れを示している。
- ・前時が振り替えられるノート指導を行っている。
- ・必ず前時の振り返りを行い、本時の課題に触れるようにしている。
- ・授業1時間の流れと時刻も示している。
- ・黒板に1時間の予定を記入し、児童生徒たちも計画表への記入を毎時間させている。
- ・見本を示し技能のゴールを示している。
- ・個別での活動や自力解決の場面では終了予定の時間を板書している。
- ・実験や観察の活動の際は、タイムスケジュールを記入している。

④授業の内容の提示

- ・ 学習内容を示し技能面・態度面の目標をホワイトボードに書き出し、1時間での変容を伝えている。
- ・ 「何をするか」が明確になるように「見える化」している。
- ・ 本時の授業の内容を説明している。
- ・ 導入で学習内容を示している。
- ・ その時間で何をするのかを始めに伝えている。
- ・ 前時の復習を入れることで、前時の内容を使いながら新しいことにチャレンジしていけるようにしている。

◎個別に対しての配慮

①目標の提示

- ・ 個人の目標を決めている。

③授業の流れの提示

- ・ 学習することが自ら順に取り出せるようにケースを用意している。
- ・ 授業の流れを必ず確認し、「今日はここまで取り組む」ということを確認している。
- ・ 始めに黒板に予定を書いて、説明を口頭で加え、個別に質問できるようにしている。
- ・ 見通しを持つのが困難な児童生徒には図や、写真を提示している。
- ・ 手元に置いて確認できるよう別紙に書くかプリントを準備している。

④授業の内容の提示

- ・ 本時の学習内容、作業の手順を始めに知らせ、板書等で確認できるようにしている。
- ・ 学習カードで学習内容を確認し、どのような学習が行われるかわかるようにしている。

⑤その他

- ・ ノートを確認するよう声掛けをしている。
- ・ ペア学習の話し合いの中で確認させている。
- ・ 活動の内容を理解しているか確認している。

5【わかりやすい伝え方の工夫】

◎学級全体に対しての配慮

①見てわかる工夫

- できるだけ具体物での操作活動を取り入れるようにしている。
- パワーポイント等を活用し、プロジェクターで映している。
- 視覚に訴えかけられるべく、イラストを交えながらやるべきことを板書しておく。
- 一斉に向けて指示をする時は、実物を使って話している。
- 言葉だけでなく身振り、図や絵で示している。

②板書の工夫

- 大切な言葉などは黄色いチョークを使って目立つようにしている。
- 黒板をノートに見立てて、どこに何を記入したらよいか意識できるよう工夫している。
- 使用するチョークの色の配慮をしている。
- めあてとまとめが正対できるような板書を心掛けている。
- 矢印のマグネットを使用して目立たせることで、取り組んでいる学習内容を示している。
- わかりやすく、易しい言葉で提示している。
- 黒板の文字をはっきり大きくわかりやすく書くように心掛けている。
- 黒板を見れば今日の授業でどんなことを学習したのかがわかるように板書を工夫している。

③指示の出し方

- 発問を精選している。
- 学習内容の手順（活動内容）は3つに絞って説明する。
- 指示は1つずつ、短く伝えるようにしている。
- できる限り児童生徒のわかる言葉（知っている言葉）を使うようにしている。
- 簡潔に説明するように努めている。
- 指示を明確に短く具体的にしている。
- 1回の指示を30秒以内、1文脈に留めている。

④話し方の工夫

- ゆっくり、短く話したり、早く話したり、緩急をつけている。
- 1トーク、1アクションで話すように努めている。
- 声のトーン、大きさ、スピード抑揚の調節をしている。
- 使う言葉に気を配るようにしている。
- 短い言葉でわかりやすく話すようにしている。
- 児童生徒が聞く姿勢を意識してから話すようにしている。
- 順序立てて話をしている。

⑤その他

- 発問を工夫し、児童生徒の考えを拾う努力をしている。
- 児童生徒の反応を見て、理解度を把握しながら伝え方を工夫している。
- 作業など必要に応じて動画、実物、ワークシートを使い分ける。
- できる限り多くの具体例を挙げるようにしている。
- 4月に学級や学年でスタートブックを発行し、全校集会で全員で読み合わせ、共通行動がとれるようにする。
- 教科のコーナーを作り、前これまでの授業で取り組んだことを復習できるようにしている。

◎個別に対しての配慮

①見てわかる工夫

- ・ 絵や写真で提示している。
- ・ 机間指導をしながら声をかけ、つまずきを確認している。
- ・ 机間指導の際、かみ砕いて説明したり確認したりしている。
- ・ 映像をとり、客観的に確認できるようにしている。
- ・ 図や表、具体例などを示している。
- ・ 口頭だけでなく、プリントや黒板も使い、視覚からの情報も得られるようにしている。
- ・ 写真や動画で学習内容を何度も確認できる工夫をしている。(理科、図工)
- ・ 専用の半具体物等を準備している(算数)。
- ・ 拡大図を用意している。
- ・ 色カードを示して、今何をする時、してはいけない時か見てわかるようにしている(赤：しゃべらない、黄：手をあげて発表等)。

③指示の出し方

- ・ 大切なことは2回以上繰り返したり、黒板やカードに書いたりして指示をしている。
- ・ 指示を短く明確にしている。
- ・ 特性に応じて話し方や指導の仕方を変えている。
- ・ 読むところ、書くところを指差しで説明をしている。

④話し方の工夫

- ・ 口頭で伝える時は、短く要点をわかりやすく伝えられるように工夫している。

⑤その他

- ・ 表現、反応を細かく観察するようにしている。
- ・ 個別に指示が必要な児童生徒には傍らに行って繰り返している。
- ・ 選択肢を設けながら、自分の考えがもてるよう配慮している。
- ・ わからない児童生徒を集めてヒントを出すようにしている。
- ・ いくつか選択肢を示して選ばせている。

6【考えをまとめさせるための工夫】

◎学級全体に対しての配慮

①ワークシートの活用

- ・ワークシートを作成し、その日の学習のまとめを書かせるようにしている。
- ・ワークシートを活用して、思考したものを表現できるよう工夫している。
- ・ワークシートにリード文をつけたりキーワードを示したりしている。
- ・まとめるためのプリントは、枠の大きさを広くするなどして、書きやすくしている。

②板書の工夫

- ・まとめまでの流れを板書で示している。
- ・板書のチョークの色を変えるなど重要な所をわかりやすく示している。
- ・キーワードが目立つように板書を整理する。

③話し合い活動

- ・相談をしたり、書いたことを見合ったりする場面を作っている。
- ・話し合いで友達の良い意見を参考にさせる。
- ・児童生徒同士で関わって活動する中でまとめる時間を作っている。

④キーワードやポイントの提示

- ・自分の言葉でまとめられるよう黒板にキーワードを書いている。
- ・キーワードを掲示し授業の大切なポイントを板書に残している。
- ・授業の流れから、まとめができるように大切な言葉を伝えるようにしている。
- ・大切なことは吹き出しシートに書き、考えやすいようにしている。
- ・毎回の授業で、繰り返し大切な部分を伝えることにより、児童生徒の定着につながるよう工夫している。
- ・授業の中でキーワードになる語を繰り返し提示したり、問い返したりする。
- ・まとめ方のポイントを提示している。
- ・段階ごとにヒントを与えている。
- ・まとめに使う欲しい言葉を授業で強調している（言葉、チョークの色などで）。

⑤考える時間の確保

- ・毎時間、自分の考えをノート等へ書き込む時間をとっている。
- ・教科や単元によって考えをまとめる時間を確保している。
- ・どの教科でも、自分の言葉でまとめられるような時間を単元ごとに考えて行っている。
- ・授業の振り返りを行えるよう時間を作っている。
- ・全体でのまとめの後、個人で確認する時間を作っている。
- ・振り返りの時間を設け、自分の言葉で学習したことをまとめられるようにしている。
- ・意図的にまとめる場面を増やすようにしている。

⑥例の提示

- ・書き方の例を出したり指示したりしている。
- ・まとめの例を先に提示する。
- ・型（まとめるための型、発表するための型・・・）などを示している。
- ・考えが浮かんだ児童に発表してもらい、例として参考にさせる。
- ・短い文章の定型文を提示している。

⑦その他
・自分の言葉でまとめができるような問いかけを意識している。 ・発表の場を与えている。 ・単元のまとめの表現の仕方を段階に応じて変えている（〇〇文字以内や〇〇という言葉を必ず使って、などの表現）。

◎個別に対しての配慮
①ワークシートの活用
・リード文が書いてある紙を渡し、必要な所だけ書けるようにしている。 ・プリントを活用し、考えやすく（答えやすく）なるような質問内容に設定している。 ・メモが段階を追ってわけて書けるようなプリントを用意している。
③話し合い活動
・4人組に机を組み、周りの児童生徒の活動が見えるようにしている。 ・ペアやグループの中で発表させている。
④キーワードやポイントの提示
・ヒントをいくつか考えておく。 ・悩んでいる児童生徒には助言、ヒントやキーワードを与えられるようにしている。
⑤考える時間の確保
・考える時間を十分にとるためにも、その時間だけでなく昼休み等も活用し個別指導をしている。
⑥例の提示
・途中まで書いた文を見せている。 ・例を挙げてわかりやすくする工夫をしている。 ・友達の意見を聞く時間を設け、自らの考えをまとめる上で参考にできるように工夫している。 ・友達の考えを基にして、近い考えを選ばせ、付け足しながらまとめさせている。
⑦その他
・本人が言いたいことを話しながら聞き出したりしている。 ・まず言葉で考えをアウトプットした後に、その後で文章に表ようにしている。 ・文章を書くことが苦手な児童生徒には箇条書きでメモを書いた後、文章で表現するようにしている。 ・1分間スピーチから始め、短作文、メモの取り方を指導している。

7【理解を促す学習形態の工夫】

◎学級全体に対しての配慮

①流れの統一

- ・ 個人で考えてからグループワークをして、個人の考えを持てるようにしている。
- ・ 学習の流れを明確にして全体指導、小集団、ペア学習等を取り入れている。
- ・ ペア→少人数という流れにしている。（内容によって変えている）
- ・ 1年を通して授業の流れを一貫させている。
- ・ 全体→グループ・ペア→全体の流れを基本にやっている。

②話し合い活動

- ・ ペア、3人組、生活班と状況に応じてグループ編成を変えている。
- ・ 1時間の中で自力解決、ペア、グループ、全体、個人など様々な形態を多く取り入れている。
- ・ 全体での指導とグループでの活動をバランスよく取り入れている。
- ・ 教科や単元によって話し合いの時間、交流の時間を設定している。
- ・ 数式領域は計算が多いため全体指導で行い、関数や図形ではグループ別の学習形態を取り入れている。
- ・ 4人組の学習形態をとり、わからなければ周りの児童生徒で相談したり、周りの児童生徒の意見を参考にし
てよいことにしている。
- ・ グループ内で意見や答えを確認し合える場面を設定している。
- ・ 少人数を活用し、役割分担をして全ての児童生徒が参加できる環境を設定している。
- ・ 児童生徒同士で話し合う場面をグループ活動の中に取り入れることで、児童生徒の学び合いを大切にしてい
る。
- ・ ペアやグループでの教え合いができるようにしている（机の配置や意図的な座席の工夫）。
- ・ 既習のものを教え合うペア活動やグループディスカッションを取り入れている。
- ・ まとめ（振り返り）の段階で話し合い活動の時間を作っている。
- ・ ペアグループで教え合う、伝えあう活動になるべく多く取り入れ、多様な考えを多方面から取り入れるよう
にしている。

③習熟度別

- ・ 理解度によって、教え合いができるように設定している。
- ・ 習熟度別で行い、理解を深めている。（特に技能面のミシンの扱い、跳び箱、マット運動、リコーダー）

④座席の配置

- ・ 2人→グループ→コの字型など意見が出やすいようにしている。
- ・ 授業によってコの字型スタイルを取り入れている。
- ・ グループやペア活動の際には座席の配置を変えている。
- ・ 座席を班長会で話し合い、学習リーダーが各グループに均等に配置されるように工夫している。
- ・ 学習内容や教科によって机の配置を工夫している。
- ・ 周囲の活動の様子が確認しやすい座席の配慮とメンバー構成の工夫をしている。

◎個別に対しての配慮	
②話し合い活動	・ちびっこ先生を児童から選出し、児童同士で学び合う環境を作っている。
③習熟度別	・学習内容や実態に応じて個別の指導やグループ指導など、個に応じて形態を変えている。 ・児童生徒一人一人が参加できるグループ学習を設定している。
④座席の配置	・周囲の活動状況が確認しやすいように座席の位置を配慮している。 ・習熟度に合わせて座席を前にすることで学習しやすい場を作っている。
⑤その他	・時間とのバランスを見ながら細かく机間指導を行っている。 ・周りの児童生徒を見本にしながら取り組めるような環境を作っている。

8【実態に応じた教材・教具の工夫】

◎学級全体に対しての配慮

②絵やイラストの活用

- ・イメージできるように絵や写真を用いている。
- ・図や絵や図形などを使って理解できるよう工夫している。
- ・場面絵や資料の用意をしている。
- ・イラストや絵を使い導入の興味や理解につなげている。
- ・低学年等はイラストや具体物を使い、実際の生活場面を考えさせながら課題を提示している。
- ・できるだけ実物を用いたり、写真等を活用したりして、視覚的に示す工夫をしている。
- ・社会科では資料集のふろくのカードなどを活用している。

③見やすさへの配慮

- ・提示する時は拡大して見やすいように工夫している。
- ・ユニバーサルデザインを意識して、色・字の大きさを工夫している。
- ・教科書の図を拡大コピーしたり動かしたりできるようにしている。
- ・拡大された運指標を使い視覚的にわかりやすいように工夫している。

④具体物、半具体物の提示

- ・どの教科においても見てわかるものは積極的に用意するようにしている。
- ・できるだけ実物や、具体物にして、興味関心を引き出す工夫をしている。
- ・見て触れて学べる体験的な活動を取り入れるようにしている。
- ・見てわかる教材や実体験を伴った教材を取り入れるよう心掛けている。
- ・身近に感じる教材を導入で使用するようにしている。

⑤ICT の活用

- ・パワーポイント等を活用し、プロジェクターで映し、画像や動画を見せ理解を促すようにしている。
- ・児童生徒の意欲を高めるために、TV やタブレットを使いわかりやすくなるようにしている。
- ・映像資料を活用し、見やすくわかりやすい工夫をしている。
- ・ICT 機器を使って視覚的にわかりやすく教材提示をしている。
- ・ICT 機器を利用して教材や授業内容への興味関心を引き出す工夫をしている。

⑥その他

- ・道徳では役割演技や、紙芝居を取り入れるなど、多様な価値観に触れられるように工夫している。
- ・ゲーム的な取組を取り入れ、児童生徒の興味関心を引き出す工夫をしている。
- ・板書に提示できるカード等を活用している。
- ・理解しやすいように特に算数では自作の教材を使ったりしている。
- ・図工などの指導を行う場合は必ず自分で作ってから指導に取り組むようにしている。
- ・児童生徒の声を聞く場面を設け、その声に応じられるよう、教材を準備している。
- ・児童生徒が良さを発揮できるよう、様々な題材をバランスよく取り入れるよう工夫している。
- ・課題の難易度によって補助教材や補助的資料を活用している。
- ・プリント1枚で1時間の授業を見通せる工夫をしている。

◎個別に対しての配慮	
①ワークシートの工夫	・あらかじめ書いておき、書く量や内容を調整している。 ・字がマスからはみ出す場合には、マス目を大きくしたり、行の幅を大きくしたりしている。 ・問題数の少ないプリント等で達成感を味わえるように工夫している。
③見やすさへの配慮	・拡大楽譜の用意をしている。
④具体物、半具体物の提示	・専用の半具体物等を準備している。 ・1つのもの（算数セットなど）の扱い方をしっかりと教えている。
⑤ICT の活用	・写真や動画を活用し、取組内容を繰り返し確認できる環境を設定している。（理科、図工）
⑥その他	・ヒントカードを活用しながら、児童生徒が自らの力で対応できるように工夫している。

9【児童生徒が自分の考えを伝えやすい工夫】

◎学級全体に対しての配慮

①型・ルールの提示

- ・発表に使う、簡単な型を示している。
例：「うなずき」、「～でしょ?」、「他にあります。」 「～が心配です。」
- ・発表の仕方を掲示したりカードにしたりしている。
- ・発表を聞く時のルールの徹底をしている。

②雰囲気醸成

- ・徐々に誰とでも話せるような学級指導を行っている。
- ・一人一人がめあてを持てる活動を行い、話しやすい環境を作っている。
- ・意見を発表したら褒めたり、意見を「なるほど」と認めたりできる雰囲気づくりに努めている。
- ・日頃から児童生徒の意見に対しては否定せず称賛することを心掛けている。
- ・発表した意見は否定しないで褒めている。
- ・意見を受け入れる雰囲気づくりに努めている。
- ・人間関係づくりを丁寧に行い、誰とでも関わり合える環境を作っている。
- ・「間違ってもいい」という雰囲気を作っている。
- ・間違えてもいいことを常に確認している。
- ・伝えてくれたことを褒め、周りの子たちとつなげて意見を出していく。
- ・学級における日常的な雰囲気づくりに努めている（何でも話しても大丈夫という安心感）。
- ・どんな意見でも受け入れ考えを引き出せるようにしている。
- ・互いの考えを発表しやすい雰囲気を作っている。
- ・毎日、学び合いを行うことで、普段から話し合いや質問しやすい環境を作っている。
- ・「失敗は成功のもと」という声掛けをしている。
- ・意図を持ちながら、自由に伝えにいたり、聞きに行ったりできる仕組みを作っている。

③考える時間の確保

- ・教科や単元によって話し合いの時間、交流の時間を設定している。
- ・自分の考えがもてるように、グループでの話し合いで互いに話せる場を作っている。
- ・ペア、グループなどで話し合いを行う時は、個別に意見を発表する時間を設定している。
- ・グループ活動での話し合いや聞き方を全体で確認し、それに沿ってお互いの意見を伝えるように工夫している。
- ・手を挙げて発表するだけでなく、グループやペア活動の中で自分の意志や考えを発表する時間を確保している。
- ・「ジグソー学習」などで、話し合い活動ができるように設定している。
- ・自分の意見をまとめる時間を設定している。
- ・考えを記述する時間を積極的に取り入れている。
- ・発表前に発表内容を書く時間を作り、事前にチェックして安心感を持てる工夫を行っている。
- ・まとめの時間に評価カードを活用し、学習内容や質問など言葉で記入する時間を設けている。
- ・書く時間、考える時間を明確に分けている。
- ・自分の考えを伝える時間を設けるようにしている。
- ・授業の終わりに振り返りの時間を設け、話し合い、書く活動、発表の時間を設定している。

④自信が持てる工夫

- ・グループで話し合いをする時間を設定し、自信をもって発言できる環境を作っている。
- ・ペアや少人数での話し合いから全体での話し合いに入れるように、個に応じて段階的に環境を設定している。
- ・全体に自分の意見を伝えるのが苦手な児童生徒に対しては、ペアグループで発表する場面をつくるなどして、自分の意見を友達に伝えられるようにしている。
- ・ペアグループ学習を取り入れて、児童生徒同士で意見交換ができる工夫をしている。
- ・小グループの活動などを取り入れ、緊張度を下げる工夫をしている。
- ・少人数での交流を多くして自信が持てるようにしている。
- ・発表の前に「○」を付けるなどして自信を持たせる。
- ・児童の生徒の考えや思いを大事にし、引き出しながら意見交換ができるよう努めている。
- ・ネームプレートを使い、2択から選択させ、必ず「意見が持てた/伝えられた」と実感できる環境を作るようにしている。
- ・「○」「×」等、発言しやすい発問の工夫をしている。
- ・学習過程の掲示をしている（安心して、見通しを持てるように）。
- ・場面によりホワイトボード等を活用することで、発表しやすい工夫をしている。

⑤発表の機会の確保

- ・班での発表（グループ発表）を行う機会を設けている。
- ・思いを伝えあう場面を意識して設定している。
- ・手を挙げるだけではなく、手をあげない子も発表できる工夫をしている。
- ・一人一人が発表できるよう時間配分を工夫している。
- ・児童生徒の発表後は、「それにつけたし」という声掛けを行い、発表に参加しやすい環境を設定している。
- ・教師が子供の要求を聞く場を増やしたり意図的に用意したりしている。

◎個別に対しての配慮

④自信が持てる工夫

- ・間違えてもいいことを常に確認している。
- ・励ましの言葉かけをしている。
- ・書くことで自信を持たせる工夫をしている。
- ・机間指導をしながら良いところを褒めて自信を持たせている。
- ・よい発言も独り言のようにぶつぶつ言っている児童生徒には、近くの席の児童生徒に聞こえる程度の声で褒め、発言を促すようにしている。
- ・少しでも自分の意見に自信を持てるように机間指導中に声掛けをしている。
- ・個人に応じたワークシート（安心して発表するために）を活用している。
- ・常日頃からコミュニケーションをとることを意識して行っている。
- ・どのように考えたらよいか一緒に考える時間を作っている。
- ・発表時、答えを間違えたり、つまったりした時には、さりげなくヒントを与えて答えられるように工夫している。
- ・困っている児童生徒には、声かけを行い、自分の意見を持てるように一緒に考える時間を作っている。
- ・本人の意思や気持ちを確認し、自分から発言できるように待ったり、間を大切にしたりしている。